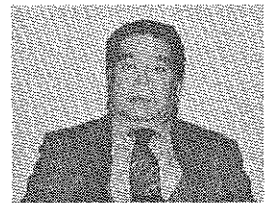




真新しくなった石垣（当館正門）

今年度をふりかえって



館長 宜保榮治郎

昨年は、復帰20周年の大きな節目を迎えました。本県では、20周年記念行事が数多く催されましたが、当館におきましても特別展が相次ぎました。県民の皆様が、これらの展示会をとおして、沖縄の自然・歴史・文化に親しみ、認識を深めていただけたものと思います。近頃は“琉球の風”が吹いており、日本の中にかつて琉球という王国があったという事を全国民に知らせる絶好の機会となりましたが、これを単にブームで終わらせるのではなく、琉球の風を機会に私たちの足元をしっ

かり見つめる機会にしたいものです。

当館では、児童・生徒に学習の場として、博物館を有効的に利用してもらえるように、“ワークシート”の作成をしました。来年度からさっそく利用していただけます。

また、貴重な資料の寄贈もございましたことを感謝申し上げます。

今後とも、県民に親しまれ、開かれた博物館づくりに活動していく所存でございますので、よろしく願いいたします。

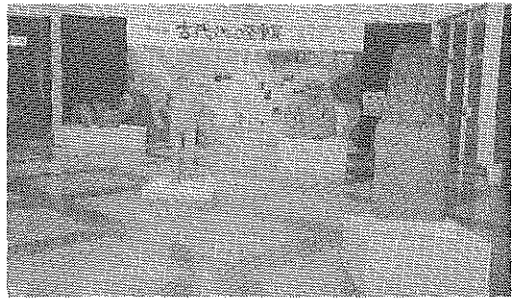
特別展・企画展ラッシュ!!

今年度は、復帰20周年記念ということで、催し物が数多くありました。当館でも、例年になく特別展がふえ、あわただしい1年でした。今年度の特別展、企画展の状況をまとめておきます。

■特別展「古代メキシコ至宝展」

・平成4年6月20日(土)～7月26日(日)

この特別展は、メキシコ国立人類学博物館を中心に、メキシコ国内13の博物館から選び抜かれた国宝級の作品124点で構成。マヤ文化やアステカ文化に代表される、紀元前1200年のメキシコ文明の発祥から、スペインに征服された16世紀までの、古代メキシコに栄えた各文化の芸術品を、5つの地区に区分し、作品を紹介。作品のなかには大型の石彫が多く含まれ、重量感にあふる見応えのある作品でした。



■特別展「沖縄の貝類～海からの贈りもの～」

・平成4年8月1日(土)～8月30日(日)

沖縄に生息する代表的な貝類を実物標本と生態写真パネルで紹介し、また、世界の代表的な貝類についても紹介。展示資料のほとんどが、名護市久志で貝類標本館を開設している仲嶺俊子氏から寄贈されたものです。同コレクションは、総数約5,000種、11,500点にも及びます。今回の展示会は、この仲嶺貝類コレクションを中心に、人の生活と関わりの深い貝の利用において、食料としての貝や道具としての貝、装飾品・美術工芸品等のなかの貝、危険な貝類等についても展示。生物としての貝だけでなく、貝のもつさまざまな側面について展示し、幅の広い貝の世界を紹介しました。

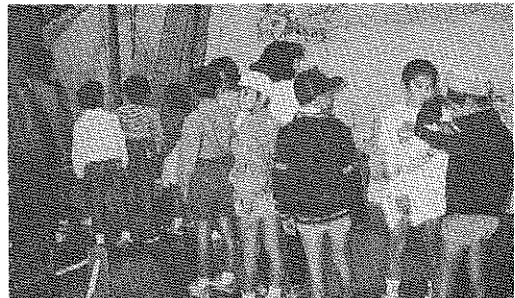


■復帰20周年記念特別展「琉球王国一大交易時代とグスクー」

・平成4年10月27日(火)～12月20日(日)

復帰20周年記念特別展「琉球王国一大交易時代とグスクー」が開催されました。この展示会は、復帰20周年の節目に先人のつくりあげてきた偉大な歴史を掘り起こし、あらためて沖縄の歴史と文化を見つめなおすことを目的に実施されました。

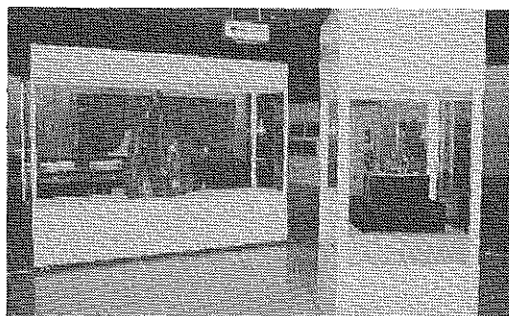
展示会では北は北海道から南は与那国島にいたるまで全国的な広がりで見られる琉球史関係資料300点余が展示・紹介されました。期間中3万7千人余の参観者があり、大盛況のうちに閉会しました。



■ 特別展 「尚家継承琉球王朝文化遺産展」

・平成5年1月5日(火)～2月14日(日)

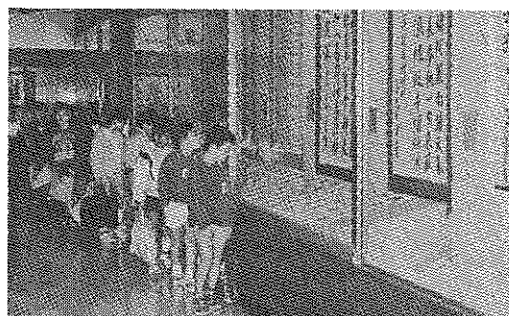
この展示会は、沖縄県、沖縄県教育委員会、那覇市、琉球新報社の主催で行われ、旧琉球王家尚家が代々継承してきた琉球王朝時代の文化遺産を初めて公開した画期的な催しであった。88,000余人の入館者があり、県の内外の関心の高さを示した。



■ 企画展 「謝花雲石展」

・平成5年2月23日(火)～3月14日(日)

謝花雲石(本名:寛剛1883～1975)は、沖縄の現代書道に大きな功績を残しているが、雲石没後17年が経過し雲石を知らない世代も増えている。昨年度、雲石のご遺族から寄贈を受けたのを契機に、新たに雲石を紹介する機会として展示会を開催、好評を博した。



その他、毎年催している企画展「新収藏品展」(平成4年5月12日(火)～5月24日(月))、「移動博物館」〔第16回〕(平成5年1月23日(土)・24日(日)波照間島)もありました。

ワークシート刊行

今年度の教育普及事業の目玉の一つは、ワークシートの作成でした。小・中・高校の先生方12人に御協力をいただき、各分野(歴史・考古・自然史・美術工芸・民俗)で検討を重ねて仕上げました。

当館では、先に『小学生のための学習ノート』『中学生のための学習ノート』『高校生のための学習ノート』を作成・刊行しましたが、ワークシートはこれらをさらに充実させたものです。新年度から児童・生徒に大いに利用してもらいたいものです。

寄贈資料

今年度もたくさんの寄贈がありました。ハワイ在住の伊福氏からの沖縄関係資料コレクション、東京在住の大嶺チヨ氏からの王妃衣裳(金茶地龍瑞雲模様繡珍衣裳)など、遠方からの貴重な資料の寄贈があいづぎました。この他、歴史資料では家譜資料2件(『白川姓系図家譜』平良貞子氏寄贈/『東姓家譜支流』稲福政吉氏寄贈)、考古資料では波照間島出土の石斧や宮古島出土の貝斧等が寄贈されました。

平成5年度行事一覧

月	特別展/企画展	常設	文化講座
4		全室 常設展示	●4/17(土)・『土器の話』—— 定員なし 講師・島袋 洋(県教育庁文化課専門員)
5	▼5/11(火) 企画展『新取藏品展』 場所・企画展示室 ▲5/30(日)		●5/15(土)・『米国の博物館活動』—— 定員なし 講師・前田真之(県立博物館学芸員)
6			●6/19(土)・『ウッチャンの話』—— 定員なし 講師・里井洋一(琉球大学助教授) 片岡 淳(琉球大学講師)
7	▼7/6(火) 企画展『芭蕉布と平良敏子』 場所・美術工芸室 企画展示室 ▲7/25(日)	歴史展示室と 自然史展示室 民俗展示室は 常設展示	●7/17(土)・『芭蕉布とともに』—— 定員なし 講師・平良敏子(染色家) 夏休み「歩く、見る、作る」教室 ①7/25(日)・『石器を作る』—— 定員・小・中学生親子10組 講師・土地克哉(県教育庁文化課) ②8/8(日)・『自然観察』—— 定員・小・中学生30名 講師・安藤間安史(北山高校教諭) ③8/15(日)・『スケッチ会』—— 定員・小学4～6年生30名 講師・田場健章(琉球大学付属中学校教諭)
8	▼8/3(火) 特別展『沖縄の川といきもの』 ※入館料は特別料金になります 場所・自然史展示室 美術工芸室 企画展示室 ▲9/5(日)	歴史展示室と 民俗展示室は 常設展示	●8/21(土)・特別文化講座 『いきものにやさしい川づくり』—— 定員なし 講師・水野信彦(愛媛大教授)
9	9/6(月)～9/15(水) 展示替え及びくん蒸のため休館		●9/18(土)・『サンバの話』—— 定員なし 講師・久貝勝盛(県立博物館指導主事)
10	▼10/5(火) 企画展『刻まれた歴史』 “沖縄の石碑と拓本” 場所・美術工芸室 企画展示室 ▲10/24(日)	歴史展示室と 自然史展示室 民俗展示室は 常設展示	●10/16(土)・『拓本教室』—— 定員20名 講師・崎間麗進(拓本研究家) 阿波根直孝(拓本研究家) ●10/23(土)・『拓本のひょうく方法』—— 定員20名 講師・当間 博(表具師)
11	11/20(土)・21(日) 第17回・移動博物館 ～伊良部町～	全室 常設展示	●11/20(土)・『琉球王朝絵画と中国絵画』—— 定員なし 講師・神山泰治(琉球大学教授)
12			●12/18(土)・『野島に親しむ』—— 定員30名 講師・高原建二(県立博物館学芸員)
12/28(火)～1/4(火) 年末・年始のため休館			
1		全室 常設展示	●1/22(土)・『寄りもの話』—— 定員なし 講師・当真剛一(県立博物館教育普及課長)
2			●2/19(土)・『ホームビデオ製作』—— 定員・親子15組 講師・西村治良(NHKディレクター)
3			●3/19(土)・『歴史の道を歩く』—— 定員50名 講師・萩尾俊章(県立博物館学芸員)

※常設展『沖縄の自然・歴史・文化』は、歴史展示室・自然史展示室・企画展示室・美術工芸展示室・民俗展示室において展示しています。企画展示室は、通常『大織蕉コレクション』を展示しています。
※特別展は、特別展示室がないため、常設展示を撤去して特別展を開催いたします。

<p>博物館案内図</p>	<p>〈バス路線〉</p> <p>那覇交通(銀バス)●(1)石嶺線(開南)●(2)牧志線(首里)●(3)末吉線の「池端」又は「当蔵」停留所下車、徒歩2分●(4)石川線(首里経由)●(5)西原線(山川経由)「桃源」停留所下車、徒歩5分。</p>	<p>沖縄県立博物館だより No.33</p> <p>発行年月日 平成5年3月31日</p> <p>編集・発行 沖縄県立博物館</p> <p>住 所 〒903 那覇市首里大中町1-1</p> <p>TEL (098)884-2243</p> <p>886-4353</p>
---------------	---	--